

# 平成20年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」についての分析と考察

平成21年8月3日

江戸川区立瑞江中学校

## <瑞江中学校としてのまとめ>

### 1. 学力向上を図るための調査のとらえ方

この調査は、平成21年2月、現在の3年生を対象にした調査である。平均正答率について一喜一憂したり、他校と比較したりすることが真の目的ではない。

本校の生徒の学力向上を図るために、調査報告書の分析と考察を行い、わかりやすい授業の確立と、基礎・基本を身につけることのできる授業の実践に役立てることが特に重要である。

### 2. 学力向上を図るための調査の結果について

本調査における瑞江中学校の生徒の総合結果は、東京都及び江戸川区の平均正答率を下回る結果となっている(→問題解決能力等の欄を参照)。この結果については、真摯に受け止めるとともに、全職員による分析と考察を行った。

この調査の結果を見ると、正答率は都・江戸川区の平均を下回り、基礎的・基本的な学力がまだ定着していないことがわかる。文章や図表を見て解答を導き出す応用力が不足していることを示している。何が問われているかを正確に読み取る国語力の底上げを図る必要がある。生徒はみな真面目に問題に取り組んでおり、無回答の生徒はほとんどいないが、このような形式の問題に慣れていないという側面もあるように思われる。授業の中に考えさせる問題を取り入れながら、さらに学力向上の意識を高めていきたい。また、家庭学習の習慣を確立させることも大きな課題と考える。

### 3. 学力向上を図るための取り組みについて

本校では基礎学力向上を図るために次のような取り組みを行っている。

- ◆「授業時間の確保」... 授業時数の確保に努め、生徒の学習時間を保証している。
- ◆「学力向上プラン」の推進... 総合的な学習の時間も含め、各教科の学力向上を目指す。  
重点目標は、①基礎・基本の定着、②自己学習力の向上の2本柱である。
- ◆「朝の読書活動」の実施... 毎朝、全校一斉に朝の読書活動を行い、人間形成の推進と学力の向上を図る。
- ◆「国語・数学・英語」の習熟度別少人数授業の実施... 1つの学級を2つまたは2つの学級を3つの習熟度別少人数クラスに分け、教師の目の行き届いた個に応じたわかりやすい授業を行う。
- ◆「総合的な学習の時間」の充実... 自ら調べる力、まとめる力、発表する力を鍛える。
- ◆「多様なコースの選択教科」... 3年は24コースから4つ選択できる。
- ◆「夏休み等の学力補充」... 夏休みの補充教室やサタデープロジェクトに希望する生徒が登校し、教科指導を受ける。
- ◆「英検」・「漢検」・「数検」を校内で実施... 多くの生徒が受検できるように配慮する。

以上のような取り組みだけでなく、学校行事、生徒会活動、部活動なども含めた全教育活動を通し、生徒の学習意欲を喚起しつつ、総合的な問題解決学習などの総合的な学力の向上を図ることを目指している。

(1)問題解決能力等に関する調査の観点別結果(正答率)

観点ごとの正答率

内容	東京都	江戸川区	瑞江中学校
問題を発見する力	81.4%	80.0%	77.0%
見通す力	49.9%	46.7%	39.7%
適用・応用する力	67.3%	64.6%	63.2%
意志決定する力	83.6%	82.8%	74.6%
表現する力	71.2%	69.3%	67.5%
総合	69.2%	66.9%	63.8%

観点ごとの結果と分析

- ・全体の平均正答率は63.8%であり、東京都・江戸川区を下回っていました。出題数9問中、正答率が70%を下回る問題は4問ありました。
- ・「問題を発見する力」は1問の出題で、平均正答率は77.0%でした。
- ・「見通す力」は1問の出題で、平均正答率は39.7%でした。
- ・「適用・応用する力」は5問の出題で、平均正答率は63.2%でした。
- ・「意志決定する力」は1問の出題で、平均正答率は74.6%でした。
- ・「表現する力」は1問の出題で、平均正答率は67.5%でした。

(2)問いごとの結果 及び 結果の分析と考察

問1. 適応・応用する力

部屋でドライヤーを使う場面において、理科で学習した電流とその利用を用いて、ドライヤーの消費電力から、宿舎の部屋で使える2台について考察して、適切に判断する力を問う問題です。

結果の分析と考察

理科の学習において

電力とは電圧と電流の積であることが理解できていない生徒が多かったことが考えられる。用語の確認を度重ねて行う必要がある。また、消費電力という考え方が日常生活と結びついていなかったため、正答率が低かったと考えられる。

基本的な用語の意味の理解の定着を図ること、日常生活を題材にした教材などを充実させていきたい。

問2. 意志決定する力

プレゼントする時計を決める場面において、時計の特徴と家族からのアドバイスとを関連させながら考察して、適切に判断する力を問う問題です。

結果の分析と考察

各教科や総合的な学習の時間において

決定事項を他人任せにする生徒が少なくない。責任を持ちたくないのか、どうでも良いと思っているのか、あまり深く考えて決めようとは思っていない節があり、考えの浅さが目立つ。物事を決定する上での大切なことや、他人の意見を聞く力をもっと高め、充実させていきたい。

問3. 適応・応用する力

校内放送でアナウンスする場面において、国語科で学習した話すことにかかわる知識を生かして、給食の時間に放送で内容を正確に伝えられるように考え、適切に判断する力を問う問題です。

結果の分析と考察

国語科の学習において

正答率が85%を越えたのでおおかたの生徒は正しく伝えられるよう考え、適切に判断する力が身につけていると考えられる。誤答した15%弱の生徒は、文章構成・単語選択・間の取り方について認識が不十分である。そこで、①音声言語の特質を踏まえ、目的や場に応じて文章を組み立てる技能を身につけさせる指導の充実と、話す速度や間の取り方を身につける指導の充実をより一層図っていきたい。

問4. 見通す力

ハイキングコースの2地点間の所要時間を調べる場面において、ガイドブックに書かれていた情報を分析・考察して、問題を解決するための見通しをもつ力を問う問題です。

結果の分析と考察

各教科や総合的な学習の時間において

各学年で行ってきた行事、遠足等で自分たちの行動を計画したり、シミュレーションすることを繰り返しており、情報収集、分析、まとめの学習の流れは学んできた。深い考察においてははまだ苦手な生徒もおり、これらの学習の意義を理解させていきたい。

#### 問5. 適応・応用する力

アルミ缶を回収する場面において、数学科で学習した関数の知識を用いて、集まったアルミ缶の重さの表から、今後の回収量を考察し、適切に判断する力を問う問題です。

#### 結果の分析と考察

数学科の学習において

関数の問題においては苦手としている生徒が多いが、日常生活と関連している問題であるため、関数の問題の割には正答率が高かったと考えられる。日常生活で使っている感覚的な考え方にも、実は数学によって成り立つものがある事を知ることで、数学に対する苦手意識を減らす事が大切だと考える。日常生活と関連した問題提示から、興味関心を引き出し、数学的な考え方と知識の定着をはかりたい。

#### 問6. 問題を発見する力

映画料金を調べる場面において、料金表から割引料金の設定と割引の利用の仕方を考察し、問題を見いだす力を問う問題です。

#### 結果の分析と考察

各教科や総合的な学習の時間において

与えられた課題について、深く考えずに受け入れてしまう素直さだけが目立ち、なかなか先の課題へ到達しない所がある。多くの情報の得方、整理をしていく中でその先の問題点や課題を見いだす力を養っていくことを考えていきたい。

#### 問7. 適応・応用する力

英語科で学習した「読むこと」に関する知識・技能を用いて、英語で書かれた新聞の天気予報を読んでピクニックに最もふさわしい曜日について考え、適切に判断する力を問う問題です。

#### 結果の分析と考察

英語科の学習において

読む力を育成するためには、漠然とした読みではなく、事前に読み取りのポイントを示すなどして、目的を持った読み取りをさせる。そのために最初に、絵や写真を手がかりとして示し、次に本文のキーになる語句を提示するなどして、生徒が既に持っている知識を喚起しながら読む力を育成したい。

#### 問8. 適応・応用する力

海外旅行で行く国の話の場面において、社会科で学習した世界の地域構成に関する知識と我が国の歴史に関する知識を用いて、世界の国の概要と我が国とのかわりについて考察して、適切に判断する力を問う問題です。

#### 結果の分析と考察

社会科の学習において

長期休暇の課題として、各国、各都道府県の調べ学習を行わせ、地理分野の基本事項である、世界の地域構成(6大陸3海洋)と諸地域の特徴(気候・風土・文化)を関連づけて学習させる。その際、日本との関わりに留意して調べさせ、過去から現在に至るまでの外交関係の推移を考えさせる。平常時の授業においては、地理・歴史・公民の分野をまたぎ、地図帳や年表を活用し、広い視点で物事を見通す力を養わせたい。

#### 問9. 表現する力

職場体験の礼状を書く場面において、職場体験報告書を基にして、体験先にお礼を述べる内容を文章で、適切に表現する力を問う問題です。

#### 結果の分析と考察

各教科や総合的な学習の時間において

伝統工芸、林間学校、職場体験でお世話になった方々へお礼状を書く場面は何回か設けてきた。本当に充実した時間を送ることができた生徒にとっては、心こもった自分の言葉で表現することができるようになった。反面頭ではわかっているが、文字に表すことが苦手な生徒も少なくない。相手にとっては心こもった表現力が大切だと言うことをわからせ、根気よく指導を継続していきたい。